

一般廃棄物処理施設の維持管理に関する情報の公表について

(2020 年度 サンライズクリーンセンター)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第4条の5の2に基づき、一般廃棄物の焼却施設であるサンライズクリーンセンターの維持管理に関する情報を公表いたします。

1. 処分した一般廃棄物(可燃ごみ)の量 ■規則 第4条の5の2第1項第1号 イ 関係

区分		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計
		単位													
焼却量	1号炉	t	1,388.97	935.36	1,965.19	2,364.74	2,447.92	2,247.34	624.01	1,394.36	2,101.44				15,469.33
	2号炉	t	1,943.62	1,605.90	1,312.56	687.31	-	2,193.77	2,020.78	-	1,910.48				11,674.42
合計焼却量		t	3,332.59	2,541.26	3,277.75	3,052.05	2,447.92	4,441.11	2,644.79	1,394.36	4,011.92				27,143.75

2. 燃焼室中の燃焼ガス温度、集じん器に流入する燃焼ガス温度、排ガス中の一酸化炭素(CO)濃度(すべての日平均値の月平均値) ■規則 第4条の5第1項第2号 ト、リ、ヲ 関係

項目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度平均値
		単位													
燃焼室中の燃焼ガス温度	1号炉	℃	901	899	901	890	895	889	884	893	902				895
	2号炉	℃	904	896	896	888	-	897	905	-	894				897
集じん器に流入する燃焼ガス温度	1号炉	℃	160	169	164	170	174	171	171	172	171				169
	2号炉	℃	160	168	160	164	-	170	172	-	169				166
排ガス中のCO濃度	1号炉	ppm	1	2	2	2	2	2	2	2	1				2
	2号炉	ppm	1	2	4	3	-	3	3	-	2				3

3. 冷却設備、排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った日 ■規則 第4条の5第1項第2号 ヌ 関係

項目	1号炉	2号炉
冷却設備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。
排ガス処理設備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。

4. ばい煙量又はばい煙濃度測定結果 ■規則 第4条の5第1項第2号 カ 関係

区分	基準値	単位	1号炉			2号炉		
			1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目
排ガスを採取した年月日			2020年6月19日	2020年10月2日		2020年5月8日	2020年9月18日	
結果が得られた年月日			2020年7月3日	2020年10月16日		2020年5月22日	2020年10月6日	
ばいじん濃度	0.01	g/m ³ N	0.001未満	0.001未満		0.001未満	0.001未満	
塩化水素濃度	40	ppm	4	15		2	16	
窒素酸化物濃度	50	ppm	33	31		33	27	
硫黄酸化物濃度	30	ppm	5	9		12	9	
水銀濃度	0.05	mg/m ³ N	0.00084	0.00079		0.00026	0.00009	

5. 排ガス中のダイオキシン類濃度測定結果 ■規則 第4条の5第1項第2号 カ 関係

区分	基準値	単位	1号炉		2号炉	
			1回目	2回目	1回目	2回目
排ガスを採取した年月日			2020年8月21日		2020年7月10日	
結果が得られた年月日			2020年9月23日		2020年8月17日	
排ガス中のダイオキシン類濃度	0.05	ng-TEQ/m ³ N	0.000063		0.000045	

【検査項目等の説明】

- ・ばいじん濃度 : 物の焼却とともに発生する。このうち、すす、完全に燃焼した灰分、燃焼ならびに熱分解による固形粒子をいう。
- ・塩化水素濃度 : 塩化ビニール樹脂等の燃焼の際に発生し、刺激臭を有する無色の気体である。自然界では火山活動等で発生する。
- ・窒素酸化物濃度 : 石油、ガス等の燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等多種多様である。
- ・硫黄酸化物濃度 : 石油や石炭を燃やすとそれらに含まれている硫黄分が酸素と結合して発生する。天然には、火山温泉等に存在する。
- ・ダイオキシン類 : 塩素、酸素、炭素、水素の存在下で、ものが燃焼するとき発生する有機化合物である。ごみ焼却、タバコの煙、自動車の排気ガス、野焼きのほか様々な発生源から副生成物として発生する。